

岡山畜産便り

2012 4



井原市 岡山JA畜産(株)種豚センター(養豚)

もくじ

〔県民局だより〕

「地元畜産知ってもらおう、食べてもらおう!!」
 ライブストックヒュージョン計画 最終章—
 美作県民局畜産第1班 1

〔普及の現場から〕

WCS用イネの新系統「中国飼205号」への期待
 津山農業普及指導センター 3

〔技術のページ〕

お米を食べたタマゴはいかが？
 農林水産総合センター 畜産研究所
 飼養技術研究室
 飼養管理研究グループ 5

〔畜産農家の声〕

子豚の安定供給を目指して奮闘中
 岡山JA畜産株式会社
 美星農場 7

〔関連業者の声〕

酪農乳業業界の今
 オハヨー乳業株式会社
 板野 圭史 8

畜産関係者名簿 10
 農林水産総合センター 12
 岡山県農業共済組合連合会 13
 全農岡山県本部畜産部 14
 おかやま酪農協同組合 15
 一般社団法人 岡山県畜産協会 16
 岡山県畜産関係各種協議会 17

〔県民局だより〕

「地元畜産知ってもらおう、食べてもらおう!!」

ーライブストックヒュージョン計画 最終章ー

美作県民局畜産第1班

美作県民局では、「地域内の消費者に畜産を理解してもらい、畜産物をしっかり食べてもらう」ことを目的とした事業（ライブストックヒュージョン計画）を、JA勝英を事業主体として畜産の盛んな奈義地域を中心にモデル的に実施しました。

この事業では、2カ年計画で畜産の理解醸成を目的に小学生を対象とした「畜産物加工体験」、「畜産絵画コンクール」及び畜産PR用DVDの作成等に取り組み、また、畜産物の地産地消を目的に「料理コンクール」や「料理教室」等を開催しました。

昨年4月号では、平成22年度に開催した「奈義町産黒豚料理コンクール」について紹介しました。

今年度は、料理コンクール第2弾として「奈義町産なぎビーフ料理コンクール」が行われましたので紹介します。

コンクールは、牛肉を用いた創作レシピを津山東高等学校、勝間田高等学校の学生から、また、今回は新たに一般からも募集しました。応募総数は55点で、牛肉の他、黒豆や里芋など地域の食材をふんだんに使った麺、おにぎり、丼ぶり、惣菜など和洋中から多種多様なレシピがそろいました。その中から、書類選考により表の6点が最終審査会に進むこととなり、最終審査会は11月27日に奈義町文化センターで開催されました。

学校名	レシピ名
津山東高等学校	奈義まん
	奈義ビーフライス
	ふわふわお好み焼き
勝間田高等学校	里芋コロコロ煮
	作州トルティーヤ
一般	奈義の宝ギョーザ

当日、参加者たちは1時間という短い制限時間の中で、材料を調理しました。学生たちは、一人だったり、グループだったり。一般からは親子での参加でした。一般参加の仲良し親子（母親と高校生の娘さん）、とてもほほえましい光景でした。



審査は、県栄養士会長を中心に、消費者、肥育牛農家、商工会、畜産・教育関係者など、地域に関わりの深いメンバーを含む10名で行われました。審査員は、できあがりだけでなく、調理中もいろいろ質問をしたりとその過程もじっくり見ていました。



審査の結果、最優秀賞には一般からの「奈義の宝ギョーザ」、優秀賞には津山東高等学校の「奈義ビーフライス」と勝間田高等学校の「里芋コロコロ煮」が選ばれました。最優秀賞選考のポイントは、主婦の知恵・アイデアも大きかったようです。



審査講評では、「どれも甲乙付けがたく難しい審査だった。昨年のレシピも含めて奈義町B級グルメを作ってみては!!」といった言葉も聞かれました。



J A勝英では、2カ年の応募作品全て(176点)を掲載したレシピ集を作成しました。これは、地域のスーパーや料理店、さらには宿泊施設に配付したり、料理教室のメニューに加えたりと様々な場面での地産地消のPRに活用する予定です。

料理コンクールの他にも、小学生親子を対象とした「アイスクリーム作り体験」や「おいしいお肉を食べよう」ポスターコン

クールも実施され、とても好評でした。



この事業は奈義地域でモデル的に実施してきましたが、このような取組が県内各地に波及し、それぞれ地域で畜産の役割が理解され(知ってもらおう)、畜産物の地産地消が進み(食べてもらおう)、畜産が将来にわたって地域の産業として誇れるものになることを期待します。

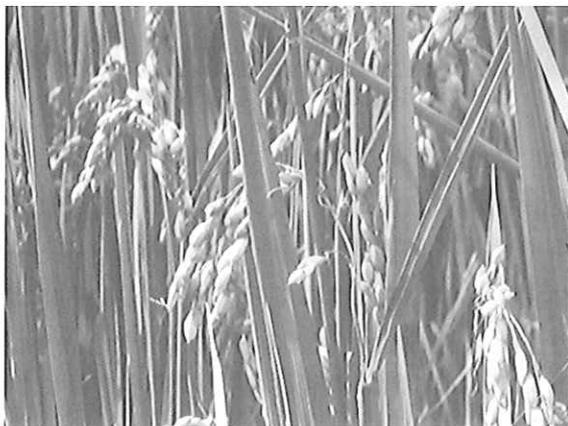
〔普及の現場から〕

WCS用イネの新系統「中国飼 205 号」への期待

津山農業普及指導センター

1 取組の背景

イネWCSは牛の飼料ですが、牛はイネのモミをうまく消化できません。1～5割のモミが未消化のまま排泄されるので、養分のロスが課題になっています。そこで、モミが少なければ、未消化モミによる養分ロスが少なくなるという考えから、モミが少なく、茎葉が多収な新系統「中国飼 198 号」が近畿中国四国農業研究センターで開発されました。「中国飼 198 号」は「たちすずか」の名前で品種登録され、津山地域では、試験栽培から始めて、採種事業にも取り組み、本格的に栽培を始めています。しかし、「たちすずか」は極晩生であるため、中生品種が普及している地域では、収穫期が遅くなるなど作付けが難しい場面もありました。そこで、「たちすずか」と同等の性質（モミが少なく茎葉が多収）を持った中生品種として、近畿中国四国農業研究センターで育成されているのが、新系統「中国飼 205 号」です。津山地域では、「中国飼 205 号」の試験栽培を行い、収量性などを調査しましたので、その結果を紹介します。



「中国飼 205 号」の出穂状況

2 栽培の概要

試験栽培は、津山市綾部地区で行いました。栽培概要は表1のとおりです。「たちすずか」

を対象品種として、比較調査を行いました。

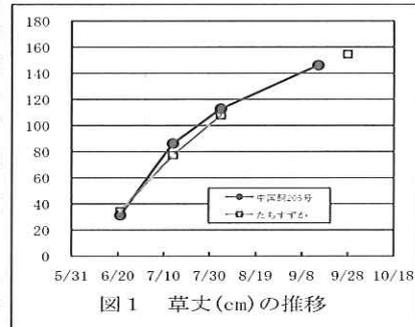
表1 試験区の栽培概要

品種名	「中国飼 205 号」
栽培方法	鉄コーティング湛水直播栽培
面積	14.0 a
播種量	4.0kg/10a (鉄種子)
播種月日	平成 23 年 5 月 13 日

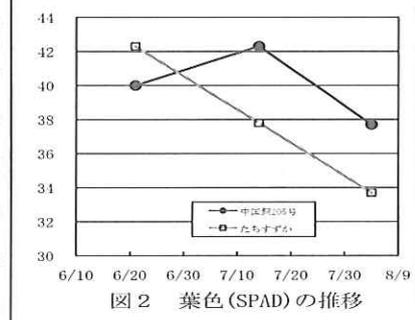
3 生育調査結果

生育調査の結果は、図のとおりです。

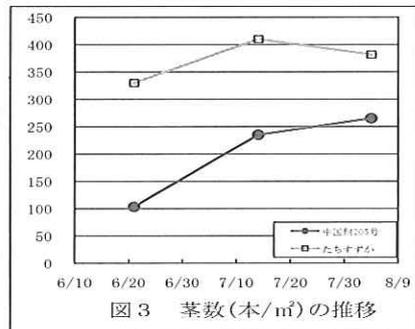
草丈（図1）は、「中国飼 205 号」の方が若干早く伸びていましたが、収穫期で比べると、「たちすずか」の方が高くなりました。



葉色（図2）は、初期以降で「中国飼 205 号」の方が濃い結果でした。



茎数（図3）は、「たちすずか」の方が多く、後半に減少しましたが、「中国飼 205 号」は、徐々に茎数が増加する傾向が見られました。どちらも倒伏はなく、生育は順調でした。



「中国飼 205 号」は、徐々に茎数が増加する傾向が見られました。どちらも倒伏はなく、生育は順調でした。

熟期は表2のとおりで、出穂期は「中国飼

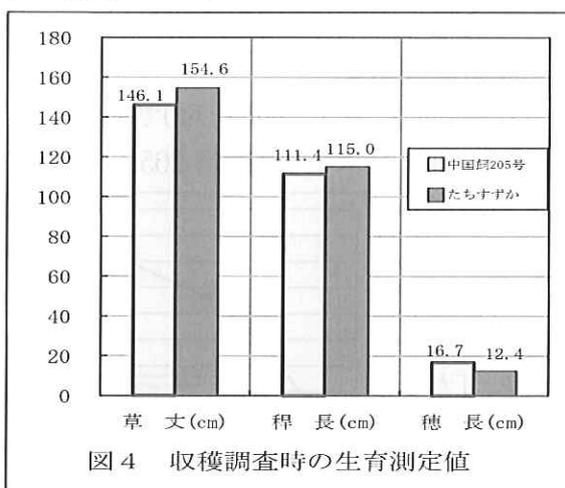
205号」の方が15日早く8月下旬で、黄熟期は18日早く9月下旬になりました。

表2 品種別の熟期

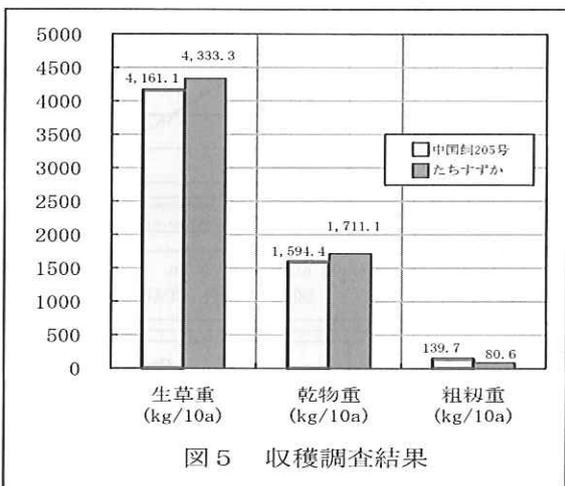
品 種 名	出 穂 期	黄 熟 期
中国飼 205 号	8 月 24 日	9 月 25 日
た ち す ず か	9 月 8 日	10 月 13 日

4 収穫調査結果

収穫調査時の生育測定値は図4のとおりです。草丈、稈長は「たちすずか」と同様に高く、穂長は「中国飼 205 号」の方が若干長い結果でした。



収穫調査結果は図5のとおりです。



生草重、乾物重を見ると、「たちすずか」とほぼ同様に多収でした。粗糲重は、「中国飼 205 号」の方が若干多い結果でした。穂長が長かったことから、「たちすずか」よりも穂が多くついていたのではないかと考えられます。しかし、他の品種に比べてはるかにモミは少なく、茎葉が多収な品種であり、「たちすずか」と同様の特性が確認できました。

5 品質調査及び成分分析結果

発酵品質の結果は、表3のとおりです。どちらも差が無く、良質な発酵品質でした。

表3 発酵品質調査結果

品 種 名	pH	乳酸(%)	酢酸(%)	酪酸(%)
中国飼 205 号	5.49	3.20	0.29	0.00
た ち す ず か	5.53	3.13	0.31	0.00

成分分析の結果は、表4のとおりです。「中国飼 205 号」の方が、粗蛋白質が高く、可溶性無窒素物が少ない傾向が見られましたが、日本飼養標準よりも高い数値でした。

表4 成分分析値の比較

品 種 名	粗蛋白質 (%)	可溶性無窒素物 (%)	ADF (%)	NDF (%)
中国飼 205 号	6.92	60.95	30.84	46.88
た ち す ず か	5.67	66.35	30.86	48.71

6 今後の課題

「中国飼 205 号」の課題は、「たちすずか」同様に草丈が高いために汎用型収穫機など収穫作業機が制限されること、モミが少ないために採種方法の検討が必要であることです。



汎用型収穫機による収穫作業

7 おわりに

「中国飼 205 号」は、現在品種登録申請中です。「中国飼 205 号」の利用により、中生品種が主力の地域での普及や「たちすずか」との組み合わせによる収穫期の分散など栽培地域や栽培期間の拡大が期待されています。

〔技術のページ〕

お米を食べたタマゴはいかが？

農林水産総合センター 畜産研究所
飼養技術研究室 飼養管理研究グループ

1. お米を飼料に！

水田の転作作物として飼料用米の作付けが年々増加しています。岡山県でも図1に示すように、飼料用米の作付面積は平成23年度に798haで、平成22年度の3.4倍に急増しています。

飼料用米の生産増加の理由としては、①通常の稲作栽培体系と同じで取り組みやすい②農機具などの新規投資が不要といった、栽培上のメリットに加え、③水田活用の所得補償交付金により耕種農家の所得を確保し、生産を推進しているためです。

家畜の種類や飼育目的によって量は違いますが、飼料用米の利用も進んでおり、中でも鶏で多く利用されています。採卵鶏では粳米や玄米を未粉碎でも利用できることから、飼料中の10～20%に配合して利用されています。

鶏用飼料のほぼ100%が輸入原料に頼っており、飼料用米は重要な国産の飼料になります。

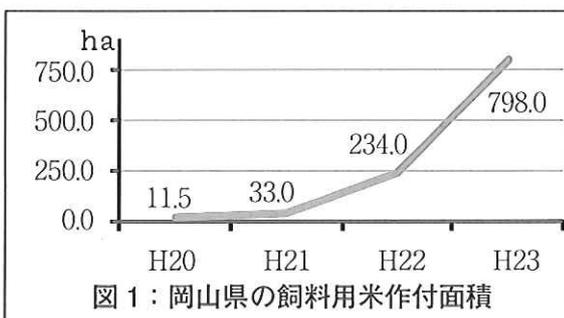


図1：岡山県の飼料用米作付面積

2. お米を食べさせてみたら・・・

玄米とトウモロコシの成分を比較すると、表1に示すように鶏用飼料の成分として重要な粗タンパク質と代謝エネルギーがほぼ同じであることから十分代替えが可能と考えられます。

鶏では飼料用米をどれだけ給与することができるのでしょうか。畜産研究所で採卵鶏にト

ウモロコシの代替えとして玄米を給与した試験を実施しました。(以下の試験は農林水産省

表1. トウモロコシと玄米の一般成分

	トウモロコシ	玄米
水分(%)	14.5	14.8
粗タンパク質(%)	7.6	7.5
粗脂肪(%)	3.8	2.7
可溶性無窒素物(%)	71.3	72.9
粗繊維(%)	1.7	0.7
粗灰分(%)	1.2	1.4
代謝エネルギー(鶏) (Mcal/kg)	3.28	3.28

※ 日本標準飼料成分表(2009年版)より抜粋

委託研究プロジェクト『自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発』の中で実施したものです。)

(1) 試験方法

1) 試験鶏

白色レグホーン種 20羽を1区とし、4区 80羽を用いました。期間としては168日齢から203日齢までの35日間です。

2) 試験区分

通常の飼料を元に、飼料中のトウモロコシの全量を玄米に置換した100%区(飼料中の玄米比率:60%)、60%を置換した60%区(同:36%)、30%を置換した30%区(同:18%)、また、全く玄米に置換しなかった0%区の4区を設定しました。

なお、トウモロコシと玄米以外の飼料原料については同じ配合割合としました。

3) 給与方法

ケージ飼育とし、上記の飼料を用い35日間の不断給餌と自由飲水にしました。

(2) 結果

飼料中のトウモロコシを飼料用玄米に置換した結果を表2、図2に示します。

玄米の配合比率を増やして100%区にして

も、鶏の体重、卵重、飼料要求率に大きな差は生じませんでした。

色素の少ない飼料用米を給与すると、卵黄色が薄くなる報告があります。今回は玄米を増加させても卵黄色が薄くなることもなく、むしろ100%区で有意に濃くなっていました。これは、トウモロコシ由来の色素はなくなりますが、飼料中に添加したパプリカの色素の影響により卵黄色で赤みが強調されたためと考えられます。

産卵率は100%区で2週間目に一時的に低下しましたが、3週目以降は回復し、他の区とほぼ同等の成績となりました。

これらのことから、飼料中のトウモロコシを全量、飼料用玄米に置換しても、鶏卵生産には影響がないと言えます。また、卵黄色が薄くなることは、飼料中のパプリカ色素の添加量を調節することで解消できることが確認されました。

表2. 試験結果

	0%区	30%区	60%区	100%区
体重の変化 (%)	104.0	102.9	103.2	103.9
卵重(g)	61.2	62.3	61.1	61.8
卵黄色	13.7 ^c	13.3 ^b	13.5 ^{bcd}	14.2 ^a
産卵率(%)	97.8	96.5	97.8	96.0
飼料要求率	2.17	2.16	2.17	2.19

a,b,c,d:異符号間に有意な差があり

※体重の変化:
試験開始時と試験終了時の体重の違いを割合で表示したもの。
100%より高いと体重が増加したことを示す。

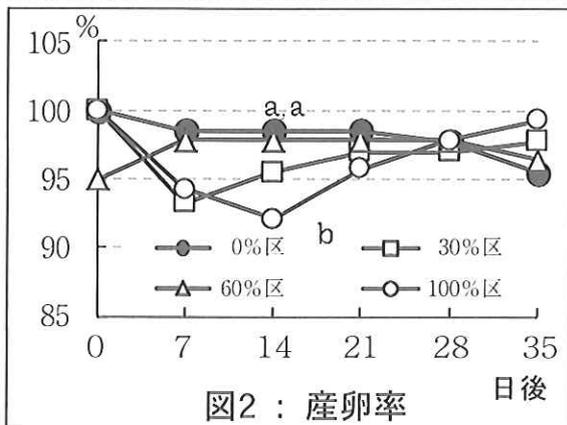


図2: 産卵率

3. 消費者はどう考える?

消費者は飼料用米で生産された畜産物に

対し、どのようなイメージを持っているでしょうか?

こっちゃんフェア-おかやまエッグ&チキン- (主催:岡山県養鶏協会)の会場で、主婦の方を対象に飼料用米と卵についてアンケート調査をしました。

①「飼料用米を食べさせた鶏卵を食べてみたいですか」

この問に対して、93%の方が食べてみたいと回答されました。

また、卵黄色が薄くなることに対して、自然である(50%)、安心感がある(43%)、健康的(38%)の意見がある反面、価格が高そう(35%)の回答もありました(複数回答)。

②「飼料用米を食べさせた鶏卵に何を求めますか」

この問に対して、価格の安さ41%、安心感38%、味のおいしさ17%の順となりました(複数回答)。

③「値段が同じならどの卵を買いますか」

この問に対して、飼料用米を食べさせた白っぽい卵(56%)、飼料用米を食べさせた黄色い黄身の卵(26%)と、飼料用米を食べさせた卵を買いたい人が合わせて82%いました。

これらのことから、多くの消費者が飼料用米を食べさせた卵に興味を持っています。黄身の色が薄くなることよりも、国産飼料を使うことで得られる安心感が重要であり、価格は安くあってほしいと考えているようです。

4. 最後に

飼料用米は玄米の状態ですトウモロコシの代わりとして十分利用できます。

また、飼料用米をトウモロコシの代わりに利用することで、多くの国産飼料に基づく鶏卵生産となり、消費者の食品への安心感にもつながります。

飼料用米の利用には、価格や飼料の配合設備等の課題も残っています。しかし、水田の有効活用や飼料自給率の向上から、飼料用米の生産・利用は推進されます。飼料用米を食べさせた今より黄身の色が薄い卵が当たり前になるかもしれませんね。

〔畜産農家の声〕

子豚の安定供給をめざして奮闘中

～岡山 JA 畜産株式会社 美星農場～

備中県民局畜産第一班

今回、井原市美星町の山あいにある岡山 JA 畜産株式会社美星農場で、日々作業にあたられている山木さんにお話を伺いました。



農場遠景

岡山 JA 畜産株式会社種豚センターでは、LW 母豚約100頭、パークシャー母豚約40頭その他、雄豚を飼養して子豚生産を行っています。

農場に初めて伺わせていただきましたが、木々に囲まれた空気の良い環境の中、山木さんを含め2名の方で管理されているとは思えないくらい清潔に保たれた畜舎で、豚達が好奇心旺盛に出迎えてくれました。



LW 雌豚

山木さんは、当農場が美星町農協の直営農場として設置された時代から、30年以上養豚に携わっておられます。養豚の醍醐味は、やはり可愛い子豚の誕生で、生まれ

たての子豚は抱きしめてやりたいくらい可愛いとおっしゃっていました。

相手が生き物であるがゆえの苦労は多く、夜でも分娩が始まれば、気になって見に行くことがあるとのことでした。

特に苦労していることは、夏の暑さにパークシャー種が非常に弱く、産子数が減少してしまうことだそうです。農場の管理を任されているという責任があるため、良い成績が出せるよう、日々努力を続けておられます。

最後に、今後の目標を尋ねたところ、おいしい豚肉を消費者の方に届けることが一番大切なことだということ念頭において、今後も健康な子豚を多く生産できるよう尽力していきたいとのことでした。



分娩直後のパークシャー種母豚・哺乳子豚

実際に農場の現状をお聞かせいただき、美味しい豚肉を、消費者の方にお届けできるよう、施策の充実、安定した産子数の種豚改良が重要であると感じました。

作業でお忙しい中、快くお話をお聞かせいただきありがとうございました。

〔関係業者の声〕

酪農乳業業界の今

オハヨー乳業株式会社

取締役 板野 圭史

オハヨー乳業株式会社の前身である大日本乳業株式会社が設立されたのは1953年、カバヤ食品への練乳供給を目的にスタートしました。1957年社名をオハヨー乳業株式会社へと変更、1963年同敷地内にアイス工場新設、同年長船町に長船工場を新設、1966年に岡山市神下565（現在の中区神下）に本社工場・事務所を新築移転、1989年に茨城県に関東工場、1992年に関東工場敷地内に焼プリン工場を新設し現在に至っています。

オハヨー乳業の黎明期は、岡山県の酪農が加速的に伸張した時期と重なり、岡山県の酪農に対する熱意とともに、弊社の事業を軌道に乗せることで岡山県の酪農振興の一翼を担いました。酪農家と乳業メーカーは車の両輪と言える関係にあり、これは創業以来連綿と引継がれてきた理念であります。

現状の酪農乳業界においては、一昨年 of 記録的な猛暑の影響に加え、昨年の震災の影響による生乳需給の逼迫や原材料の高騰等厳しい環境が続いており、今年度についても、生乳生産量は、都府県においては減少基調、北海道においても従来のような増勢傾向にないため、生乳需給はタイトな様相を呈しており、特にバター・脱脂粉乳については引き続き逼迫状況が予測されています。

震災時には、関東地区を中心に、サプライチェーンの大規模な寸断で、牛乳をはじめとする乳製品が売り場から姿を消すという事態が起きました。このことで、改めて牛乳をはじめとする乳製品の重要性が見

直されることとなり、各メーカーは供給責任を果たす為に、酪農乳業界で連携しサプライチェーンの回復に全力で取り組み、早期の立て直しを行うことができましたが、その間、電力の制約、原材料の逼迫等の要因等により厳しい環境下での操業をやむなくされました。

弊社も、関東工場が地震の影響により、再開までに約2ヶ月の期間を要するという大きな被害を受け、その間、岡山県内の本社工場、長船工場での生産品目に限られた商品供給をやむなくされるという創業以来の事態に直面しました。この2工場で可能な限りの供給体制を取らざるを得ない状況下、岡山県内を中心とした生乳需給調整について多大なご尽力をいただきました。大変な混乱時の生乳供給についてご努力いただきましたことあらためまして御礼申し上げます。

生乳需給とは別の問題として放射性物質の問題があります。この問題は、消費者の食品に対する安全・安心の意識に大きな影響をもたらしており、牛乳・乳製品は必需品としての位置付けにあることから、社会的にも非常に関心の高い対象となっています。東京都の一部地区の学乳に端を発した製品の検査・公表の動きは、日本乳業協会をして牛乳の17都県の検査結果公表へと発展しました。この動きの根源にあるのは、消費者の放射性物質についての情報不足から来る不安感です。行政には正確な情報提供を行うことで指標となる基準値に対する理解度を高め、消費者の不安感を払拭できる様よりいっそうの努力を期待すると同時

に、酪農乳業界が連携を取りながら統一された継続的な対応を行うことが必要と考えます。今後も弊社は日本乳業協会等業界団体の指針に沿って、安全・安心な牛乳・乳製品をお届けするために義務感を持って取り組んでいきたいと思ひます。

一方岡山県内の生乳生産状況につきましては、生産量は引き続き減少傾向にあります。その背景には酪農家の皆様の後継者問題、配合飼料高騰等による経営の悪化、TPP問題等による将来設計の不安からの投資抑制などが要因としてあると言われております。このような状況を打破するために、中国生乳販連が「域内30万ト、復元計画」として、14年度に向けて生乳生産基盤復元計画に乗り出すことが決まりました。過去最大となる対策費を投入し、酪農家の皆

様による増頭の取り組みを後押しするのが柱となっています。岡山県においてもこの対策により生産基盤の強化が図られることを期待致します。ぜひとも岡山の地域特性をいかした適正な経営規模・経営形態で、かつ常に連携を取りながらさまざまな問題に対応することで生乳生産量を維持拡大していただき、生乳の安定供給をお願いしたく思ひます。

弊社といたしても、厳しい業界において競争に打ち勝つために、商品開発力・顧客創造の耐えざる先見性を最大の武器として、リスクを恐れず取り組んで行き常に成長する事で、岡山県内の酪農発展に貢献して行きたいと考えておりますので、是非とも引き続き安全・安心な生乳の安定供給継続のために生産基盤拡大への努力をお願いしたく思ひます。



岡山県畜産関係者名簿（平成24年4月1日現在）

部 署	職 名	氏 名	部 署	職 名	氏 名		
畜産課 (22)	課長	若田 茂	岡山家保 家畜保健衛生課 (21)	所長	黒瀬 浩平		
	副課長	田頭 博行		課長	河原 宏一		
	総括参事（酪農飼料班長）	中塚 陽二郎		副参事	江田 泰一		
	総括参事（経営流通班長）	岸戸 武士		副参事	松長 清美		
	副参事	津寺 春良		副参事	遠藤 広行		
	主幹	松井 泰和		主幹	松馬 定子		
	主幹	有木 正人		主任	児子 友美		
	主幹	池田 克美		主任	大賀 美智恵		
	主任	三原 保江		主任	黒岩 力也		
	酪農飼料班	副参事		吉元 和明	主任	藤原 裕士	
	主幹	坂本 洋介		主任	出石 節子		
	主任	田中 健嗣		主任	澤井 紀子		
	主任	佐藤 静子		主任	難波 かおり		
	食肉鶏卵班	総括副参事（食肉鶏卵班長）		菱川 雅弘	(休)	技師	森清 邦彦
	副参事	井上 信治		病性鑑定課	課長（所長兼務）	(黒瀬 浩平)	
	主任	塩田 鉄朗			特別研究員	大内 紀章	
	主任	田辺 裕司			特別企画専門員	疇地 勅和	
	衛生環境班	総括参事（衛生環境班長）			馬場 誠	専門研究員	北村 直起
	副参事	多賀 伸夫			専門研究員	専門研究員	別所 理恵
	副参事	斉藤 浩史			専門研究員	専門研究員	田原 鈴子
	主幹	清水 淳也			専門研究員	専門研究員	萱原 佳美
	主任	西 淳子			研究員	研究員	橋田 明彦
備前県民局（4）	総括副参事（畜産班長）	山本 康廣	井笠家保 (10)		所長	貝原 裕彰	
副参事	多田 幸四郎	次長			平野 充生		
主幹	植田 幹隆	副参事		岡田 ひろみ			
技師	吉田 由紀	主幹		守屋 吉英			
備中県民局（7）	総括副参事（畜産第一班長）	川尻 鉄也	主幹	秦 守男			
	副参事	河原 貴裕	主任	馬場 彩			
	主任	金岡 孝和	主任	田中 静香			
	主任	荒金 知宏	主任	佐野 通			
	技師	山口 葵	技師	田中 恵			
美作県民局（8）	総括副参事（畜産第二班長）	木曾田 繁	高梁家保 (9)	技師	新採		
	主任	横内淳一郎		所長	加藤 信介		
	農畜産物生産課長	砂原 一彦		次長	田林 宏一		
	総括副参事（畜産第一班長）	藤原 努		副参事	橋本 尚美		
	主幹	澤田 勝志		副参事	平田 祐介		
	主幹	串田 晴彦		主幹	武縄 勝浩		
	主幹	有安 則夫		主幹	森分 哲彦		
	主任	朝倉 麻由子		主任	篠田 剛		
総括副参事（畜産第二班長）	澤田 健二	(休)	主任	黒岩 恵			
技師	金谷 健史	(休)	主任	紙谷 建志			
			技師（代替）	串田 規子			

農林水産総合センター

所 属	職 名	氏 名
普及連携部普及推進課 (086-955-0274)	副 参 事	内 田 義 男

農業大学校

所 属	職 名	氏 名
研修課 (086-955-0550)	教 授	森 山 靖 成

農業普及指導センター
備前県民局農林水産事業部

所 属	職 名	氏 名
岡山農業普及指導センター 産地指導第一班 (086-233-9850) 産地指導第三班 (086-233-9851)	総括副参事(班長) 主 任	正 吉 輝 彦 石 川 和 人
東備農業普及指導センター 産地指導第二班 (0869-92-5178)	主 幹	三 木 隆 司

備中県民局農林水産事業部

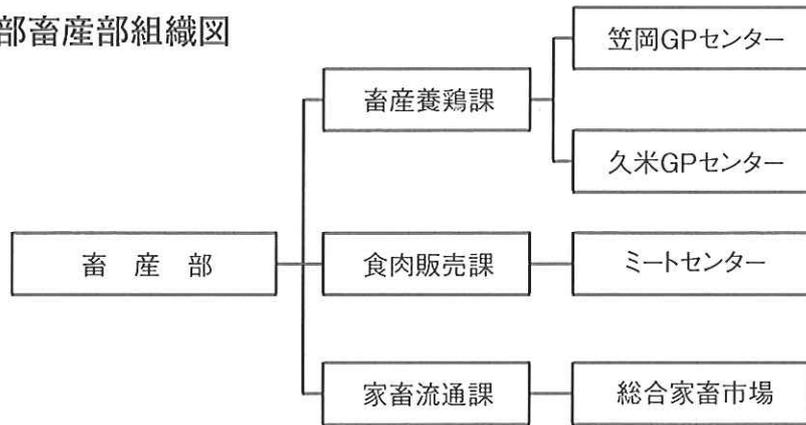
所 属	職 名	氏 名
倉敷農業普及指導センター 産地指導第二班 (086-434-7028)	総括副参事(班長)	山 下 明 徳
井笠農業普及指導センター 産地指導第一班 (0865-69-1653) 産地指導第二班 (0865-69-1655)	技 師 主 任	馬 場 裕 介 宮 本 康 子
高梁農業普及指導センター 産 地 指 導 班 (0866-21-2851)	総括副参事(班長)	貞 政 和 男
新見農業普及指導センター 産 地 指 導 班 (0867-72-9179)	主 任	武 藤 多 佳 子

美作県民局農林水産事業部

所 属	職 名	氏 名
津山農業普及指導センター 産地指導第一班 (0868-23-1524)	総括副参事(班長)	三 宅 清
真庭農業普及指導センター 産地指導第二班 (0867-44-7585)	主 幹	川 口 泰 治
勝英農業普及指導センター 産地指導第一班 (0868-73-4068)	副 参 事	大 谷 晴 美

家畜部	畜産課	部長	西村 一 道
家畜部	畜産課	課長補佐	福原 肇
TEL 086-224-5596		副主幹	影山 毅
FAX 086-225-7064		副主幹	日下 知加久
		副主幹	三島 絹江
		臨時	千田 衣利夏
生産獣医療支援センター	所長	豊田 幸晴	
TEL 0867-22-1500	主幹	犬間 一郎	
FAX 0867-22-1194	副主幹	西川 達也	
	技師	根木 慶彦	
	技師	上総 亜由奈	
	嘱託	二村 治司	
	嘱託	赤木 佐千子	
	臨時	大賀 まりえ	
南部家畜診療所	所長	亀森 泰之	
TEL 086-943-6888	主幹	村田 一人	
FAX 086-943-7703	副主幹	大谷 香里	
	主任	久田 野歩	
	技師	石井 さやか	
	臨時	根岸 寿子	
西部基幹家畜診療所	所長	岩原 幸治	
TEL 0865-64-4141	次長	前原 健成	
FAX 0865-64-2926	主幹	高市 直登	
	主任	池山 亨	
	主任	荒木 勇介	
	技師	松山 雄喜	
	臨時	小野 好恵	
西部家畜診療所	所長	山 護	
TEL 0866-22-2211	主幹	藤井 多加治	
FAX 0866-22-0358	主査	大屋 卓志	
	主査	江草 佳彦	
	臨時	中 笹 良恵	
西部家畜診療所新見支所	副主幹	鴨井 敏則	
北部基幹家畜診療所	所長	小村 昭正	
TEL 0868-26-1112	次長	金盛 隆志	
FAX 0868-26-6632	次長	福原 稔	
	主幹	本田 直樹	
	副主幹	正木 丈博	
	副主幹	西山 篤	
	副主幹	畦崎 正典	
	技師	城谷 歩惟	
	技師	森田 康広	
	技師	吉村 遥子	
	技師	若槻 拓司	
	嘱託	戸田 寿子	
真庭家畜診療所	所長	山本 幹男	
TEL 0867-44-2164	総括主幹	植月 義友	
FAX 0867-44-5319	主幹	野矢 秀馬	
	主任	水戸 康明	
	臨時	古谷 和江	
蒜山家畜診療所	所長	西原 直輝	
TEL 0867-66-2517	主幹	森本 高輝	
FAX 0867-66-4626	副主幹	杉山 定敏	
	副主幹	田村 展敏	
	技師	藤井 蘭枝	
	臨時	宮本 美佐枝	

全農岡山県本部畜産部組織図



全農岡山県本部 畜産部人事配置

平成24年4月1日現在

部・課	職名	氏名	備考
畜産部	部長	石原 正敬	
	次長	藤原 雅人	
	次長	難波 智明	兼務
畜産養鶏課 (畜産086-234-6884) (養鶏086-234-6885)	課長	川崎 敦史	兼務
		大森 康弘	
		中村 健	
		原 千秋	
		中桐 朋美	
笠岡GPセンター (0865-62-5131)	センター長	川崎 敦史	兼務
久米GPセンター (0868-57-3911)	センター長	川崎 敦史	兼務
		浅江 玲子	
		高本 友子	
食肉販売課 (086-296-5033)	課長	西江 聡	
	専任課長	太田 裕之	
	専任課長	宮地 伸嘉	
	副審査役	佐藤 茂	
		高屋 佐知子	
ミートセンター (086-296-5088)	センター長	堀田 文博	
		木下 貴博	
		中村 倫政	
		藤原 哲	
家畜流通課 (0867-42-5333)	課長	柴田 憲志	
	審査役	下山 慎吾	
	副審査役	小椋 一広	
		暮地岩 有斗	兼務
		植田 淑江	
総合家畜市場 (0867-42-5333)	市場長	難波 智明	兼務
		暮地岩 有斗	兼務

平成24年度 一般社団法人岡山県畜産協会組織図



岡山県畜産関係各種協議会名簿一覧

(平成24年4月1日現在)

名 称	会 長	事 務 局
岡山県産食肉地産地消推進会議	岡山県農林水産部長	岡山県畜産課
岡山県家畜人工授精師協会	延原 昭	岡山県畜産課
岡山県酪農乳業協会	千葉 靖代	おかやま酪農業協同組合
岡山県産牛肉銘柄推進協議会	本松 允之	全農岡山県本部畜産部
岡山県産豚肉消費促進協議会	本松 允之	全農岡山県本部畜産部
岡山県養鶏協会	池田 隆政	烏城養鶏農業協同組合
岡山県ふ卵協会	山上 恭宏	岡山県農林水産総合センター 畜産研究所
おかやま地どり振興会	黒田 忠雄	岡山県農林水産総合センター 畜産研究所
岡山県装削蹄師会	平井 計行	岡山県農業共済組合連合会
岡山県養蜂組合連合会	吉村 信映	鈴木養蜂場
岡山県和牛子牛資質向上対策協議会	石原 正敬	岡山県畜産協会
岡山県畜産経営総合支援協議会	石原 正敬	岡山県畜産協会
岡山県馬事畜産振興協議会	樋口 義男	岡山県畜産協会
岡山県養豚振興協会	黒藪 忠章	岡山県畜産協会
岡山県地域未活用資源飼料化協議会	樋口 義男	岡山県畜産協会
岡山県コントラクター協議会	石原 聖康	岡山県畜産協会

和牛シンポジウムを津山市で開催!

高齢化、担い手不足に加えて子牛価格の低迷、牛肉消費の伸び悩みなど依然として厳しい肉用牛を取り巻く経営環境の中、和牛生産者の意欲高揚と和牛生産の振興につなげるシンポジウムを平成24年3月2日（金）、津山市新野東 津山市勝北文化センターで開催しました。

今回のシンポジウムは（社）岡山県畜産協会をはじめ全農等県下畜産五団体で構成する実行委員会の主催及び岡山県、津山市の後援を得て開催しましたが、県北部を会場として毎年この時期に開催しており、和牛シンポジウムとしては十一回目を迎えました。

今年のテーマは、「健康な牛づくりは適切な子牛の管理から」と題して県真庭家畜保健衛生所瀬尾主任から「子牛出荷時の発育状況に及ぼす影響について」の発表。社団法人畜産技術協会高橋参与から「和牛繁殖の哺育・育成期の飼養管理について」、またジャパンカーフクリニック矢田谷院長による「子牛の健康と生産性の向上を図るために」と題して、今子牛を健康に飼育するにあたっての課題、対処方法がわかりやすく示唆され、来場者は真剣に聞き入っていました。

また、津山市宮部上において平成21年7月より新たに和牛飼育を開始した末澤未央さんから和牛飼育を始めてから今日までの数々のエピソードとご主人をはじめ家族全員の和牛飼育への熱い思いが語られ、参加者の大きな共感を得ていました。

また、本年10月長崎県で開催される第10回全国和牛能力共進会のPRキャラバン隊も来場、共進会開催への雰囲気盛り上げました。今回の参加者は鳥取、徳島県等の県外生産者を含め、約270名でした。



岡山県養豚振興協会が養豚研修会を開催!

平成24年3月13日、岡山県養豚振興協会は岡山市北区建部町にあるサンタケベで、平成23年度養豚経営技術向上研修会を開催しました。

今回の研修会には会員のほか指導者を含めて約40名が参加、①「豚病対策について」津山家畜保健衛生所 梯洋介技師②「最近の豚格付状況について」日本食肉格付協会 岡山事業所 中井勇夫所長③「養豚情勢及び養豚振興施策について」岡山県農林水産部畜産課 今井久志主任から3課題の講演を頂き、幅広い内容で有意義な研修となりました。

津山家畜保健衛生所の梯技師は、主にマイコプラズマ肺炎とレンサ球菌の発生状況と衛生対策について、格付協会の中井所長から、県営食肉市場での豚格付け結果について、岡山県畜産課の今井主任から養豚に係る国及び県の施策として養豚経営安定対策事業などの説明がありました。その後、県産豚肉4種類の試食も行われ、参加者からアンケートを取りましたが、いずれの豚肉も高い評価を受け、県産豚肉の美味しさを改めて実感しました。



また、岡山県養豚振興協会は、第41回豚枝肉共励会を平成23年3月7日に県営食肉市場で開催、30セット、60頭の出品があり、最優秀賞には真庭市の新田善洋さんほか2点が受賞されました。

出品された60頭の内、上物率は71.7%と優れた成績を取りましたが、雌の背脂肪で背薄なものが散見されたこと、枝肉重量にバラツキがあったことから、更なる肥育技術の向上に取り組んでいきます。

一般社団法人岡山県畜産協会がスタート

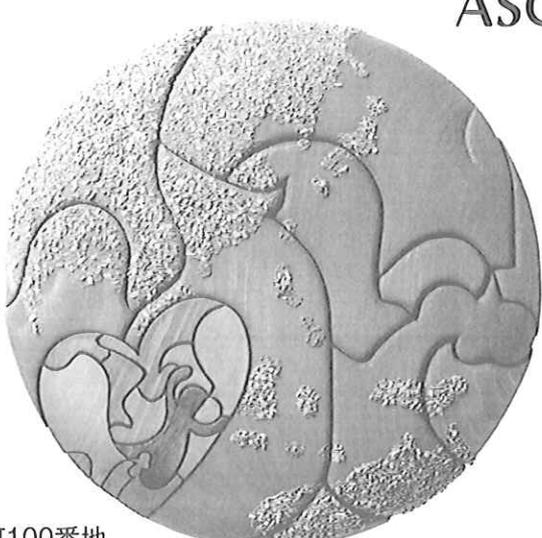
岡山県畜産協会は、平成15年4月に県内の畜産関係3法人で統合発足以来、畜産農家等の運営や技術指導の他、畜産物の価格安定対策や自衛防疫の推進、生乳品質の検査や向上対策など、国及び県の施策や制度推進の補完的役割を担う公益法人として活動を続けてまいりましたが、このたびの公益法人制度改革に伴い、4月1日から一般社団法人として新たにスタートしました。

今日の不安定な諸情勢下での制度改革に際し、畜産分野でも予断を許さない状況が続くことが予想されることなど総合的に判断して、会員団体のご理解も得て非営利型一般社団法人への移行を選んだ次第であります。

この先も当協会の設立目的に沿って、畜産経営の安定的発展と県内畜産の振興に寄与するため、新たに畜産公共事業の実施主体としての機能も担い、これまでどおり公益事業を継続しながらも、家畜伝染病の発生予察情報に基づく予防注射事業など時代の要請や地域のニーズに応じて、適時・適切な支援指導活動に邁進いたす所存であります。

つきましては、今後ともよろしくご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ASCO



生命をのせて回る地球に、
潤い豊かな未来を届けたい。

株式会社 アスコ

<http://www.asco.sala.jp>

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー
人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します

本社 〒441-8021 愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821 FAX 0532-33-3611

営業所所在地

- ・中部支店 豊橋、安城、名古屋、浜松、沼津、岐阜
- ・中国支店 広島、福山、山口、岡山、米子
- ・関東支店 児玉、大宮、前橋、松本、旭、茨城、栃木
- ・東北支店 仙台、古川、福島
- ・関西支店 大阪、京都
- ・首都圏営業部 東京、横浜



福山競馬開催案内

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

(4月)

4月	開催日	重賞・特別競走予定	4月	開催日	重賞・特別競走予定
1	日		17	火	
2	月		18	水	
3	火		19	木	
4	水		20	金	
5	木		21	土	○
6	金		22	日	○
7	土		23	月	
8	日		24	火	
9	月		25	水	
10	火		26	木	
11	水		27	金	
12	木		28	土	○
13	金		29	日	○
14	土	○	30	月	
15	日	○ 第45回福山桜花賞	15日レディースデー(女性入場無料)		
16	月				

(5月)

5月	開催日	重賞・特別競走予定	5月	開催日	重賞・特別競走予定
1	火		17	木	
2	水		18	金	
3	木		19	土	○
4	金		20	日	○
5	土	○	21	月	
6	日	○	22	火	
7	月		23	水	
8	火		24	木	
9	水		25	金	
10	木		26	土	○
11	金		27	日	○ 第1回福山記念
12	土	○	28	月	
13	日	○ 第39回福山ダービー	29	火	
14	月		30	水	
15	火		31	木	
16	水		6日レディースデー(女性入場無料)		

あとがき

平成24年度が始まった。今回も、新年度の各組織の人事配置を掲載しました。

各組織とも大きな組織替えはありませんでした。

なお、「岡山畜産便り」は発刊以来今まで、例外の年があるものの、年10回の発行でしたが、この度実施したアンケートの結果で、多くの方の要望により、本年度から年間6回の発行となります。

回数は減ることになりましたが、内容は、今までより濃いものにしたと考えていますので、今後とも、ご愛読の程、よろしくお願ひします。(M・Y)

岡山畜産便り 4月号

第63巻第4号(通巻638号)

平成24年4月25日発行

定価250円(消費税・送料含)

発行人 樋口義男 編集人 山下政道

発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階

TEL 086-222-8575 FAX 086-234-6031

印刷所 岡山県農協印刷株式会社

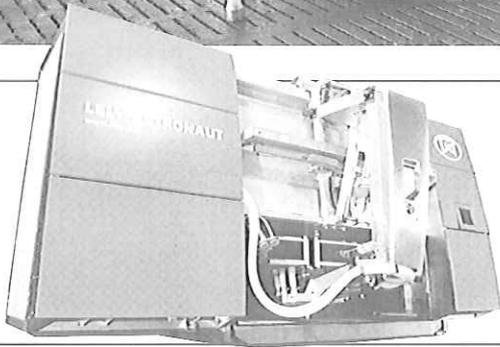


アストロノート 導入で実現するフリーミルクング

innovators in agriculture



アストロノートの導入効果は、搾乳作業の自動化と省力化だけではありません。
 データ管理がもたらす細やかな個体管理と効率の良い農場管理。
 個体別給餌管理による飼料効率向上。
 頻回搾乳実現による乳房疾病や治療費の減少。
 ストレス軽減環境による産次数向上と購入費用の削減。
 優れた発情検知機能による受胎率向上。
 牛と人との時間的・精神的なゆとり。
 アストロノート導入で実現するフリーミルクングは、酪農家のみなさまが抱える問題
 への解決策であると共に、明るい酪農の未来を支える最短距離でもあるのです。



レリー搾乳ロボットが更に進化

ASTRONAUT A3 NEXT 新登場

- 優れた耐久性
- カウコンフォートを追求した設計
- 反芻・活動量計測機能付き個体タグ
- 正確・迅速なティートカップ装着
- データ解析による個体管理
- 牛に優しい分房別離脱



株式
会社

小

六

本社 〒702-8022 岡山市南区福成2丁目14番23号 TEL 086(263)1221
 津山営業所 〒708-0825 津山市志戸部712番地 TEL 0868(22)1561

動物用医薬品
総合商社

MPアグロ株式会社

取扱品目

動物用医薬品、医薬品、飼料添加物、混合飼料、
 動物用機器・機材、土壌検査器具・機材 他畜産関連商品

事業所一覧

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13 TEL 011-376-3860 FAX 011-376-3755
 岡山オフィス 〒700-0822 岡山県岡山市北区表町3丁目5番1号 TEL 086-224-1811 FAX 086-224-1819
 リサーチセンター 〒703-8256 岡山県岡山市中区浜1丁目10番5号 TEL 086-270-9510 FAX 086-270-8371
 御津物流センター 〒709-2122 岡山県岡山市北区御津吉尾1番地1 TEL 0867-24-4816 FAX 0867-24-4882

【中国営業部】

岡山支店 〒709-2122 岡山県岡山市北区御津吉尾1番地1 TEL 0867-24-4880 FAX 0867-24-4889
 尾道支店 広島支店 山口支店 鳥取支店 松江支店

【四国営業部】高松支店 徳島支店 松山支店 宇和島支店

【近畿営業部】京都支店 大阪支店 泉南支店 和田山支店 明石支店

【北海道営業部】札幌支店 函館支店 旭川支店 帯広支店 北見支店 釧路支店 東京支店

【東北営業部】青森支店 八戸支店 秋田支店 盛岡支店 一関支店 山形支店 仙台支店 郡山支店

【北九州営業部】福岡第一支店 福岡第二支店 熊本支店

【南九州営業部】宮崎支店 都城支店 鹿児島支店 鹿屋支店

【食品営業部】福岡食品支店 鳥栖食品支店 唐津食品支店